

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成28年11月17日 (2016.11.17)

【公開番号】特開2014-239869(P2014-239869A)

【公開日】平成26年12月25日 (2014.12.25)

【年通号数】公開・登録公報2014-071

【出願番号】特願2013-245889(P2013-245889)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 6 Z

【手続補正書】

【提出日】平成28年9月27日 (2016.9.27)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 1】

本発明は、遊技の進行に合わせて装飾態様を変化させることが可能な装飾装置を備えた遊技機に関する。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 2】

遊技機には、遊技領域を有する遊技盤の周囲に L E D 等の装飾ランプやスピーカ等が設けられ、遊技盤の中央に電飾ランプやモータで駆動する可動役物、液晶表示装置等を備えるセンターケースが設けられていることが多い（特許文献 1 参照）。また、この種の遊技機の中には、これらの電飾ランプや可動役物等を遊技の進行に応じて駆動させることにより、変動表示ゲームで特別結果態様が導出されることに対する遊技者の期待感を高めるための演出を行うようにしたものがある。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 3

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 4

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 0 5 】

【特許文献 1】特開 2 0 1 1 - 5 0 4 7 4 号公報

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 0 6 】

昨今の社会的な節電機運の高まりにより、遊技機における消費電力が問題視されるようになってきた。遊技店においても低消費電力化への関心は高まっており、遊技機における消費電力の低減が望まれている。

本発明は、上記の課題に鑑みなされたもので、消費電力を低減することが可能な遊技機を提供することを目的とする。

【手続補正 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 0 7 】

上記の課題を解決するため、本発明は、

遊技の進行に合わせて装飾態様を変化させることが可能な装飾装置を備えた遊技機において、

所定の節電開始条件が成立したことに対応して、前記装飾装置の装飾態様が所定の節電装飾態様となる節電状態を発生させることが可能な節電制御手段を備え、

前記節電制御手段は、前記所定の節電開始条件が成立してから所定期間が経過した場合に前記節電状態を発生させるようにしたことを特徴とする。

【手続補正 8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 8

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 9】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 9

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 1 0】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 0

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 1 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 1 1 】

本発明によれば、消費電力を低減することができる。

【手続補正 1 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 5 8 1

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 5 8 1 】

次に、遊技機 1 0 の節電機能のオン / オフ動作の流れについて説明する。

本実施形態の遊技機 1 0 は、例えば、遊技場管理装置 H に接続され、スピーカ 1 9 a , 1 9 b の音量レベルが「 4 」に設定された状態では、図 1 2 0 に示すように動作する。具体的には、遊技場管理装置 H に所定の操作がなされると、遊技場管理装置 H が遊技機 1 0 へ出力している節電制御信号がハイに変化し、節電機能をオンにすることが可能（節電機能が有効）な状態となる（ t 1 ）。なお、節電制御信号の状態（ハイ / ロウ）によって節電機能の有効期間を決めるのではなく、所定の開始コマンドが送信されてから終了コマンドが送信されるまでの間を有効期間としてもよい。

【手続補正 1 3】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 5 8 6

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 5 8 6 】

ところで、遊技制御装置 1 0 0 または遊技制御装置 1 0 0 が管理する装置においてエラー状態が発生した場合は、遊技機 1 0 は図 1 2 1 に示すように動作する。具体的には、エラー状態が発生すると、遊技制御装置 1 0 0 から演出制御装置 3 0 0 へエラー報知コマンドが送信される（ t 1 4 ）。そして、音源 L S I 3 1 4 からアンプ回路 3 3 7 a , 3 3 7 b にエラー報知音の出力を指示するコマンドが送信され（ t 1 5 ）、スピーカ 1 9 a , 1 9 b からは音量レベル「 5 」でエラー報知音が出力されるようになる（ t 1 6 ）。

発生していたエラー状態が収まると（ t 1 7 ）、その後も節電機能がオフとなった状態が第 3 所定時間（ T e r r o r ）継続する。この第 3 所定時間経過後に節電機能がオンになり（ t 1 8 ）、スピーカ 1 9 a , 1 9 b は音声を出力しなくなる（ t 1 9 ）。

このように、エラー状態が収まってから装飾装置の装飾態様をエラー非報知態様に戻すまでにある程度の時間を置くと、エラー状態が収まった直後にエラー状態が再び発生して、装飾装置の装飾態様が頻繁に変更されるのを防止することができる。なお、ここでは、第 3 所定時間の長さについて特に規定しなかったが、第 2 所定時間と同様に、第 3 所定時間（ T e r r o r ）を、第 1 所定時間（ T w a i t 1 ）よりも短くするようにしても良い。

【手続補正 1 4】

【補正対象書類名】 特許請求の範囲

【補正対象項目名】 全文

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

遊技の進行に合わせて装飾態様を変化させることが可能な装飾装置を備えた遊技機において、

所定の節電開始条件が成立したことに対応して、前記装飾装置の装飾態様が所定の節電装飾態様となる節電状態を発生させることが可能な節電制御手段を備え、

前記節電制御手段は、前記所定の節電開始条件が成立してから所定期間が経過した場合に前記節電状態を発生させるようにしたことを特徴とする遊技機。